

【栄区】認証式が開催されました

10月5日、横浜市栄区において、セーフコミュニティ認証式が開催されました。現地審査は本年1月に行われましたが、認証式での合意書への署名をもって認証となりますので約9か月を経ての認証となりました。

現地審査においてだされた課題を踏まえて申請書を改訂されて間もなくご担当者が異動され、新たなご担当者は他の自治体の



認証式への出席のご経験もないなど知識も経験も限られたなか準備を進めてこられました。認証式については、日本ではなじみがないもののISC文化となっている「必須項目」もあり、調整が大変だったとご推察します。



また、続く6日には、関連イベントとして、国際的に平和や安全のために活躍されている女性たちによるシンポジウムが開催されました。時

間的そして会場等の関係からSC活動の紹介がなかったのが残念でしたが、認証後のコミュニティにおける課題はSCの継続的な普及ですので、今後の積極的な啓発活動を期待しています。

チョ先生は、式典の祝辞のなかで、「次のステップとして市内の他区そして横浜市SCへと広げられることを期待しています」と大都市におけるSCの展開に対する期待を示されました。ご担当者は、「認証をリセットととらえ、正しくSC活動を積み上げていきます」と心強いコメントをされています。

【北本市】専門家による視察（プレ審査）

6日の夕刻に横浜市栄区から北本市に移動し、続く7日と8日（午前）にかけて、専門家（チョ・ジュンピル先生、パイ・ル先生）による視察（プレ審査）が行われました。

北本市は、対策委員会でワークショップを実施し、質

的・量的の両面から地域診断を行いました。じっくりと時間をかけたため、事務局としてはプレ審査の際の進捗状況もこれまでの多くの自治体と比較し



てやや遅れているとご心配されたかもしれませんが、審査員をされる専門家のチョ・ジュンピル先生、パイ・ル先生からは、地域診断に基づいた方向性と重点対象の設



定のしっかりとしたプロセスに高い評価をいただきました。

また、今回のプレ審査には、これから認証を迎える自治体、

再認証を目指す自治体、現地審査を終えたばかりの自治体、と様々な段階の自治体のSCご担当者が出席され北本市の取組から学ぶとともに、北本市が企画くださった懇親会では交流を図られていました。

このように、日本では現地審査や専門家への報告の機会などを他の自治体等にオープンにすることについては非常に高く評価されており、最近では、台湾や韓国でも日本にならってオープンにするようになりました。



多くの自治体からの参加がありました

【厚木市】清水小学校 ISS 再認証現地審査

9日10時から4時間半をかけて、海外審査員として台湾のパイ先生をおよびして、厚木市立清水小学校のISS再認証にむけた現地審査を実施しました。

3年前の最初の認証の際も現地審査においても高い評価を受けましたが、今回は前回の認証時に学校として設定した課題にどう取り組んできたかを中心に、校長先生、SCご担当の先生、児童、PTA代表、地域の方、そして清水小学校卒業生が協力して報告しました。

パイ先生からは、①SC活動としっかりと連携している点、②関係者がISSの精神を理解し、着実に実践してい

る点、③データを活用して課題および取組の成果を確認している点、④清水小学校としての継続ではなく、子どもの成長にそって周辺小学校、地域の保育園や中学校にも ISS の機会を広げようと「時局的な継続」作ろうという姿勢、などが高く評価され、再認証にふさわしいと評価いただきました。



校長、教員、児童、PTA、地域そして卒業生
がリレー形式で報告しました

当日は、清水小学校および厚木市の計らいで現地審査を公開してくださったので、日本各地の ISS に取り組む保育所・園、小学校、中学校の代表者、教育委員会の方が出席されました。なかには「あそこまでできるだろうか」「自分たちの学校では無理だ!」と心配された方もおられたそうです。実際に取組を始めるまではそう感じられますが、しっかりとISSの



理念を理解し、安全診断をしていけば、おのずと活動が始まります。そして、認証・再認証を迎えられる頃には、今の心配は杞憂だったと思われるでしょう。

【ISS】セーフスクールシンポジウム in Atsugi

清水小学校の現地審査の後、休憩を挟んで厚木市とJISCの共催による「セーフスクールシンポジウム in Atsugi」が開催されました。今年度に入り、日本では多くの保育園・所、小学校、中学校が国際セーフスクール(ISS)活動に着手しています。これからどのように進めてよいのか実感がわかず不安を抱いておられる方も多いなか、まずはISSを理解していただき、清水小学校と合わせて池田小学校や朋有小学校によるご報告を通して多様な取組であることを学んでいただくことを目的に開催しました。



最後に参加者で記念撮影をしました。

当日は、まずJISCによるISSの概要説明から始まり、すでに認証されている大阪教育大学附属小学校、豊島区立朋有小学校による事例報告、そしてパイ・ル先生よりISSが活発な台湾の事例とそれ踏まえたISSのあり方、

進め方について講演をいただきました。いずれも限られた時間のなかでのご報告でしたが、これからの取組を展開されるにあたって参考になることを願っています。

【JISC】再認証現地審査（台北市中正区）

10月15日、台北市中正区において、再認証にむけた現地審査が行われました。今回の審査は、ワン・シュメイ氏と前回の認証申請に引き続きJISC白石が担当しました。



中正区は、区の機関だけでなく中央政府や台北市の機関が設置されていることから、様々な社会資源を活用できるという利点があります。それに加えて、地域活動が非常に活発で日本の町内会や自治会にあたる「里」のリーダーである里長積極的にSCにかかわっており、「協働力」が報告や現地視察の端々にみられました。区長は、



着任3か月とのことで、非常に緊張されていましたが、審査員から「再認証の条件を満たしています」と伝えられると、涙をうかべ、地住民や市職員たちとハイタッチして喜んでおられる姿から短期間であつてもすでに地域の方とのつながりと信頼を構築されていることをうかがうことができました。また、地域の学校も積極的に参加しており、地域と学校の密接なつながりをみることもできました。

活動報告と質疑応答からは十分に再認証のレベルに達していると判断できる一方で、申請書には十分な情報が盛り込まれていない点が指摘され、審査員からは、認証式までに申請書にしっかりとロジック(なぜAという取組をやっているのか、どうやって実施しているのか、その結果どんな成果があったのか、を体系的に)示してくださいとの指示に、出席者全員が「もちろんです!」と前向きに答えました。みなさんのおおらかで前向きな姿勢が頼もしく、11月2日の認証式が楽しみです。



喜びを分かち合うSC中正区



【発行】一般社団法人 日本セーフコミュニティ推進機構
※問い合わせは下記ヘッダーの連絡先まで。